



LAOS 100 | 農業編  
ラオスの有カビジネスパーソン



# はじめに

本誌はラオスのアグリビジネスの有力ビジネスパーソン28人を選定しインタビュー記事を取りまとめたものです。近年日本企業によるラオスの農林業セクターへの相談が増加しており、事業パートナー候補の企業情報の必要性が高まっています。本誌は日系企業による事業パートナー候補の選定の際に一つの情報としてご活用ください。本誌における有力ビジネスパーソンとは、必ずしも大企業の経営者のみを意味するのではなく、①アグリビジネスセクターにおけるリーディングカンパニー、もしくはその潜在力を有し将来性が見込めること、②ラオス社会において評判が高く、信頼性のある企業および経営者であること、③日本企業との連携を積極的に模索して

いること、の3点を重視して選定いたしました。

水力発電にけん引され近年成長の著しいラオスですが、2015年センサスによると人口の72%が農林業に従事している農業国でもあります。外国投資ではこれまでは天然ゴムやユーカリ、メイズ、キャッサバなどの大規模プランテーションが先行してきましたが、近年ではコメ、野菜、果物、畜産など国内外をマーケットとした農産物生産や加工も見られるようになってきています。

本誌には28社のラオスの内資や外資のアグリビジネス企業をまとめています。ラオス企業の多くは中小企業であり、また近年事業を開始したばかりの新興企業も多いことが特徴です。鉄道や道路網など周辺国と

のインフラの改善を、アグリビジネスのビジネスチャンスと見て新規参入が増えています。

もし、本誌に掲載した企業への連絡を希望される方がいらっしゃいましたら、ジェットロ・ビエンチャン事務所へ是非ともご相談ください。本誌が皆様のラオスにおけるビジネス展開に、少しでもお役に立てることを期待しております。

最後に改めてインタビューに快く応じ取材をさせていただいた有力ビジネスパーソンの皆様、ならびに本誌の作成にご協力を頂いた皆様に深く感謝を申し上げます。

2019年11月  
ジェットロ・ビエンチャン事務所

# 掲載企業リスト



企業名	ページ
Agroasie Group Co., Ltd.	4
AIDC Agriculture Green Farm Sole Co., Ltd.	5
AMZ Group Co., Ltd.	6
Dao-Heuang Group	7
D.S.K. Group	8
Dynamic Investment Co., Ltd.	9
First Foods Sole Co., Ltd.	10
Herb Import-Export Sole Co., Ltd.	11
Inxythong Motor Import-Export Co., Ltd.	12
Khampay Sana Agricultural Development Co., Ltd.	13
K.P Co., Ltd.	14
KPN Pharma Sole Co., Ltd.	15
Lao Agro Industry Co., Ltd.	16
Lao Agro Tech Publich Company	17
Lao Dairy Farm	18
Lao Farmer Network	19
Lao Farmer's Products	20
Mai Savanh Lao Co., Ltd.	21
Mekong Joint Venture Co., Ltd.	22
Mittaphab Development Agriculture Co., Ltd.	23
Pakxong Development Export-Import Co., Ltd.	24
Phanphet Agriculture Development Co., Ltd.	25
Phutawen Tourism Co., Ltd.	26
Sammith Farm Individual Enterprise	27
Soukchaloen Farm	28
STE Lao-International	29
The Bolaven Plateu Coffee Producers Cooperative	30
XP Trading Lao-Chine Co., Ltd.	31

業種分類表 (右ページ)



… 中核事業



… その他の事業

栽培	畜産	林業	加工	農業資材	農業機械	輸出入	組合	観光
●			●			●		
●						●		
●	●			●				
●			●			●		
●			●					
●			●			●		
●			●			●		
				●	●			
		●						●
●			●	●	●			
●			●			●		
●			●			●		
●			●			●		
●	●		●					
							●	
●			●			●		
●			●			●		
●			●			●		
●			●			●		
●			●					●
●						●		
●			●		●			
●								●
●								●
●	●							
●			●			●		
●	●		●				●	
●	●		●					





## 有機栽培、フェアトレード、国産。

### Agroasie Group Co., Ltd.

#### Mr. Khamlar Phommachanh / Marketing Manager

【略歴】1987年生まれ、チャムバスック県出身。ビエンチャン会計学校を経て、ティップワリーカレッジ卒（ビジネスアドミニストレーション）。在学中の2011年から同社の会計担当として働き、2013年から店舗マネージャー、2016年から現職。

栽培

加工

輸出入

を維持する重要なピースとなっています。

ンドしたりしています。

#### 御社の事業内容は？

当社はラオス人と4名の欧米人で設立した農業法人です。ビエンチャン西部のサントン郡で、メコン川沿いに4ヘクタールの農場を保有しており、栽培から加工・販売まで一貫した生産を行っています。職員は21名。首都ビエンチャンの中心部に直営店舗を運営するほか、都内の間屋や小売店、高級ホテルへも製品を卸しています。「有機栽培、フェアトレード、国産」をモットーとし、生産者や環境にやさしく、持続的で健康的な製品を提供しています。

#### 主な生産品目は？

栄養価が高くスーパーフードとして知られているモリンガをはじめ、ターメリック、バタフライピー、ローゼル、ローズマリー、タイム、チョコレートミント等のハーブ類を栽培しています。2011年にラオス農林省のオーガニック認証を取得しており、当農場では全て有機栽培です。これらハーブを自社工場で加工し、ハーブティーやサプリメントとして販売しています。また、約600羽の鶏を有機飼料で飼育しており、一日100個程度と少ないですが有機卵も生産しています。糞は堆肥づくりに利用しており、当社の有機栽培

#### 委託農家もあるそうですが？

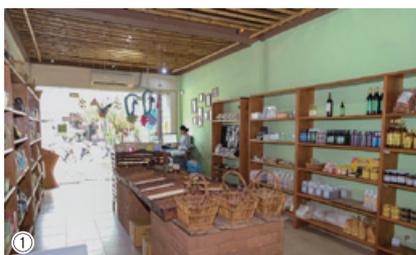
2011年から自社農場付近にあるハイタイ村の農家と契約し、コメや黒豆の生産を委託しています。いずれも有機栽培・生産です。うるち米、もち米のブラックライスやブラウンライスは年間約40トンの生産高です。農家との栽培契約はフェアトレードで実施しており、2012年にはフェアトレード・ラオス（FTL）の認証を受けています。また、ラオス北部のボケオ県からは、茶葉を調達しています。樹齢数百年の老樹があり、緑茶（フォレストティー）、発酵茶（ブラックティー）などが生産されています。これらのお茶をティーバッグにパッケージしたり、ハーブとブレ

#### 販売先は？

一部シンガポールへ輸出していますが、国内向け販売が大半を占めており、スーパー・コンビニ65%、直営店20%、飲食店・ホテル15%です。特にハーブティーや有機卵はホテルのニーズが高い商品です。

#### 今後の展開は？

当社のモットーを守りつつ、需要に応じて新製品を開発していくつもりです。また、ヨーロッパや中国などへの輸出も視野に入れています。その際、国際的な有機認証を取得する必要があるでしょう。もし日本企業で当社との協業に興味をもっていただけるのであれば歓迎します。



①ビエンチャン都内中心部の直営店舗。②事務所の様子。③手作業で行われるパッケージング。④5つ星ホテル向けに販売しているティーバッグ。

DATA

所在地： P.O.Box 8393, Chao Anou Road, Unit101, Ban Sisavat, Chanthabouly District, Vientiane Capital, Lao PDR

電話： +856-21-254376

設立年： 2010

ホームページ： <https://agroasie.com>



## 中国市場を日本品質の野菜で狙う。

### AIDC Agriculture Green Farm Sole Co., Ltd.

### Mr. Pheutsapha Phoummasak / President

【略歴】1984年生まれ、ピエンチャン出身。シンガポール留学時に学相手の格安航空券販売を開始、帰国後旅行会社を設立。2003年からコンサルタントとしても活動。2008年には中国、タイ、マレーシア、インド、欧州のパートナーらとともにAIFS（投資事業）を設立。2014年、AIFSの子会社としてAIDC（建設、不動産、発電事業等）を設立。2018年AIDC傘下に農業法人を設立。

栽培

輸出入

#### 御社の事業内容は？

当社は2018年に設立した農業法人で、AIDCグループに属します。AIDCは建設と不動産開発を基幹に、水力・風力発電、浄水場や都内高速道路などのインフラ、貿易、フランチャイズによる飲食など、幅広いビジネスを展開しているグループです。都市部近郊のノンテン地区の土地12ヘクタールを政府からコンセッション（借地）し、55万ドルを投資して試験栽培を開始しました。

#### 何を栽培していますか？

試験栽培段階として、アスパラガス、スイカ、食用ヨルガオの試験栽培を行っています。農場には12棟のグリーンハウスや育苗場、灌漑施設を建設し、タイ人農業技術者を招聘して指導してもらっています。試験栽培の状況は順調です。アスパラガスやスイカは日本から種子を調達したものです。現在は14人のスタッフで運営しており、日々農業知識と技術の習得に努めています。また、高設栽培施設も準備中で、コスレタスなどの栽培を計画しています。2027年頃までに100ヘクタール規模の本格的な農場に拡大する計画で、アスパラガスを中心に、グリーンオークリーフ、ワイルド・ロケツ

ト、ホウレンソウ、レタス、ケール、紫キャベツなどの葉野菜、トマト、チェリートマト、キャロット、サツマイモ等も栽培していきます。将来的な農地拡大を念頭に、サワンナケート県との間で大規模農地開発の可能性調査を実施しています。ピエンチャン県でも同様の調査に着手しており、将来に渡り十分な土地を確保することが可能です。

#### ターゲットとする市場は？

まずはラオス国内向けの販売からスタートさせますが、2021年中に中国ラオス鉄道が完成することから、中国をターゲット市場と考えています。農地のあるノンテン地区は駅に近く、鉄道の完成により中国へのアクセスは格段に容易になります。また、中国では野菜や果物など

の需要が高いため、当社では日本産レベルの高品質で付加価値の高い作物を生産し、高価格帯で中国市場へ販売する計画です。その後、条件が整えば、日本、韓国、ヨーロッパ、アメリカへも輸出していきたいと考えています。

#### 日本企業への期待は？

当社はトレーサビリティを含む、日本と同様の高品質農産物を生産することを目標としています。このため、日本の農業技術者に当社への参画を期待します。合弁や提携でも良いでしょう。当社が土地や施設、人材を提供し、パートナー企業には技術テクノロジー、マーケット、資金などを期待します。是非、当社の農業プロジェクトに参画していただきたく思います。



①農地の準備の様子。②職員への技術指導は定期的に行っている。③野菜の高設栽培施設。④アスパラガスの苗。

DATA

所在地： NNN Building(5th Floor) Phonsinuan RD. Ban Phonsinuan, Sisattanak District, Vientiane Capital, Lao PDR

電話： +856-21-410051

設立年： 2018

ホームページ： <http://greenfarm.aidcloas.com>



## 養鶏事業からメガファームへ。

### AMZ Group Co., Ltd.

### Mr. Alivan Sithara / CEO & President

【略歴】1985年生まれ、ビエンチャン出身。小中学時代をベトナムで過ごす。2000年頃から父の仕事の関係で日本とラオスを往復する生活。2003年、日本でアムズインターナショナル設立。2008年、ラオスで不動産・ホテル事業を開始。「ラオスから世界へ」がモットー。ラオス科学技術省基準局・ラオス国家標準証明・品質管理センター副会長・ビエンチャンロータリークラブ会頭。

畜産

農業資材

栽培

#### 御社の事業内容は？

当社は日本の建機・中古車の貿易業からスタートした会社で、東京にも拠点を持っています。2010年にコンサルティング事業にも乗り出し、現在はラオスに本社を置き、日本企業等のラオス進出をサポートしています。IT、物流、旅行代理店、レストラン業などに積極的に出資を行い、日本企業の事業推進に協力しています。また、ホテルや不動産、建設事業などにも参入し、現在28社の外国企業と合併を行っており、その内10社は日系企業です。更に20社程度の日系企業との取引があります。当社は様々な事業を行っていますが、新たな投資分やとして力を入れているのが農業分野です。

#### 農業分野での取り組みは？

タイの食品大手ベタグロ・グループと業務提携し、鶏卵事業に参入しています。現在、ラオスの養鶏数は100万羽程度にとどまっており、タイからの輸入に頼っているのが実情です。国内の卵需要を満たすには、最低でも700万羽は必要と見られており、確実な需要が見込まれています。当社はビエンチャン西部に20ヘクタールの敷地を取得。約5億円を投資して大規模養鶏場の建設を

開始しています。20万羽規模の養鶏場はラオス最大・最新鋭となり、2020年末の稼働開始を見込んでいます。また、別の土地では屠畜場の建設も進めています。この屠畜場は当社の採卵鶏だけでなく、ベタグロが他企業と進める養豚場の豚も加工される施設となり、2020年に完成する予定です。更にこれらの稼働に伴い、鶏糞や豚糞を活用した肥料工場も運営する計画です。また、屠畜場の残渣を活用し、スッポンなどの養殖事業も検討しています。

#### 農業人材の育成計画は？

農業分野のラオス人技術者育成を目的とし、海外就労斡旋事業を開始しました。日本への技能実習生送り出し機関として、日本語教育や生活教育に取り組んでいます。特に農業分野に力を入れており、茨城や福島等へ送り出し、野菜や果物栽培などの分野で活躍しています。今後は畜産分野も視野に入れ、ラオス帰国後は当社のコア人材として活躍してくれると期待しています。

#### 今後の展開は？

ビエンチャン近郊の冷涼な山間部に、2万ヘクタールのメガファームを建設する構想を持っています。野菜や果物だけでなく、日本米やブドウも栽培し、日本酒、ワイン、ウイスキー、クラフトビールなど、多様な酒造り行うことが夢です。先行投資として、AMAZES Breweryという会社を設立し、政府から酒類製造免許を取得しました。メガファームでは日本の黒豚や地鶏の生産に取り組む計画もあり、日本企業の協力が必要となります。また、自動販売機の輸入事業も始めました。まだ30台と少ない実績ですが、今後は台数を増やし、将来的にはメガファームで生産した自社のフルーツジュースの販売を自販機を通して展開する計画です。更に、当社はワットタイ国際空港の免税店出店許可を取得しました。ラオスには国産のお土産品が少なく、お土産用菓子の生産が必要です。ラオス産の原料を活用した製品づくりへの協力も、日本企業に期待しています。



①ビエンチャン西部に建設中の大規模養鶏場。②日本への技能実習生に対する研修風景。



DATA

所在地：P.O.Box 6111, Unit 19, Ban Beungkhayong Tay, Thadeua Road, Sisattanak District, Vientiane Capital, Lao PDR

電話：+856-21-316097

設立年：2012

ホームページ：www.amzgp.com



## ラオスコーヒーの最大手。

### Dao-Heuang Group

### Ms. Leuang Litdang / President

【略歴】1948年生まれ。貧しい越橋家庭の8人兄弟の長女として幼い頃から苦労を重ねる。12歳で焼きバナナやトウモロコシなどを販売。僅かな資金を元に食料品店を開く。パクセーのベトナム系医者と結婚。2012年にはジャパンタイムスが選ぶ「アジア次世代の100人のCEO」に選出される。

栽培

加工

輸出入

#### グループの事業内容は？

当グループはコーヒー事業を中核に据え、免税店運営、不動産開発、ゴルフ場開発、航空券販売など、多角的なビジネスを行っています。グループの前身となったのは、1991年に設立した貿易会社で、タバコや香水などを免税店に販売していました。1998年にはコーヒー産業に進出し、その後、マーケットの開発や免税店運営にも乗り出しました。2007年には事業の整理と再編を行い、農業（コーヒー、茶、各種農産品）、製造業（加工食品）、サービス業（航空券販売）、小売業（免税店）、不動産業（マーケット、ゴルフ場）の5部門を柱とするグループとして再出発しました。

#### コーヒー栽培について

コーヒー事業はグループ売上の大部分を占めており、コーヒー豆の栽培から焙煎、インスタントコーヒー製造、カフェチェーン展開など、川上から川下まで一貫して自社で行っています。南部ボラベン高原の中心部バクソン郡に250ヘクタールの自社農場を保有している他、周辺農家2,300世帯と栽培契約を結んでいます。アラビカ種とロブスタ種がほとんどですが、高級ティピカ種

も10ヘクタールほど栽培しています。コーヒーパルプ、パーチメントなどを堆肥として利用しており、農薬や化学肥料の使用は出来るだけ控えています。生豆、焙煎豆ともに輸出しており、2015年の輸出量はアラビカ種が5,000トン、ロブスタ種は6,000トンです。アラビカ種の輸出先は日本が大半を占めています。当グループのコーヒー豆輸出量は、ラオスからの総輸出の約半数になります。

#### コーヒー加工品に関して

2012年にインスタントコーヒー加工工場を、南部のパクセーに設立しました。投資額は1億2,800万ドルで、東南アジアでは最も近代的なコーヒー加工工場です。生産キャパは年間8,000トンで、GMP、

HACCP、ISO22000：2005などの国際基準をクリアしています。現在はピュアコーヒーに加え、砂糖・ミルク入りのコーヒーミックスを合計年3,000トン生産。国内販売だけでなく周辺国にも輸出しており、CMにタイの国民的歌手バード・トンチャイを起用するなど、「ダオ・コーヒー」のブランド化に努めています。

#### その他の事業は？

カフェ・チェーンは国内だけでなく、タイやベトナムにも進出しています。また、パクセーでは1,000店舗が入居する市場を、ビエンチャン市内中心部の河川敷では約7,000平米のナイトマーケットを、それぞれ運営しています。国境免税店も運営しており、ラオス最大の免税店ネットワークを築いています。



①パクセーの「ダオ・コーヒー」の工場。②パクセーのグループ本社ビル。③直営カフェ・チェーンの「ダオ・コーヒー」店内。④南部パクセーで運営するマーケット。

所在地： No.437, Unit 26, Kamphengmeuang Avenue, Hongkai Village Saysettha District, Vientiane Capital, Lao PDR  
電話： +856-21-457-044  
設立年： 1991  
ホームページ： <http://www.daoheuanggroup.com>



## 飲料から発電まで幅広い事業展開。

### D.S.K. Group

### Mr. Hansomlak Philavan / Director

【略歴】1986年生まれ、バクセー出身。2013年Lao American Collageで企業経営学(学士)。2015年Rattana Business Administration Collageで企業経営学(修士)。学生時代にはインターナショナルスクールで教員補助やDSK Groupで臨時職員として勤務し、2015年に正社員となる。現在はルアンパバーンで事業総責任者として活躍。グループ創設者のSayasing Sanakeo氏は岳父にあたる。

栽培

加工

#### 御社の事業内容は？

当社は1999年の設立以来、建設業を中心に展開していましたが、現在はホテル、マーケット運営、飲料製造、ダム開発へ事業を多角化し、300名以上の従業員を抱えています。建設セクターでは中圧送電線の建設を得意としており、2カ所のプレストレスト・コンクリート工場を保有しています。2001年にはホテル事業にも進出し、世界遺産都市ルアンパバーンで、「Flora by Sanakeo」(3つ星)と「Sanakeo Boutique Hoteland Spa」(4つ星)を運営しています。マネージャーにオーストラリア人を招き、サービスの向上にも努めています。マーケット開発ではルアンパバーンで最大規模を誇る、面積1万5,000平米のポージー市場を運営しています。約150区画に多くの店舗が出店している活気ある市場です。

#### 飲料事業はいかがですか？

2005年に「Mineral」ブランドのミネラルウォーターと氷の製造を始めました。ルアンパバーン郊外のプープン山に水源を持ち、ミネラルを豊富に含んだ硬水は、ルアンパバーン県を中心に8割のシェアを獲得しています。ミネラルウォーター

は日5万リットル、氷は日5トンの生産能力です。ルアンパバーン市内には高級ホテルが多いため、提供する飲料水には高い品質が求められます。当社は定期的に品質試験を実施しており、他社に比べて高い価格設定にもかかわらず販売が伸びていることも、高い信頼を得ていることの裏付けと言えるでしょう。2016年には「アセアンビジネス特別賞」を受賞しています。また、ミカンやパイナップル、タマリンドジュースといった、「Freshy」ブランドのフルーツジュースの製造も行っています。ミカンは100ヘクタールの自社農園で栽培しています。ルアンパバーンはミカンの産地として有名ですが、国内市場では輸入の濃縮果汁ジュースがまだ一般的です。新鮮で美味しいジュースには参入余地があると見て投資に踏み切りました。パイナップル

プルやタマリンドは農家からの買い付けで原料を確保しています。当初、製造機械設備は日本やドイツ製などを検討しましたが、最終的には低価格でメンテナンスが安心な隣国タイの機械を導入しています。

#### 今後の計画は？

既存事業の質を高めることを第一に考えています。飲料事業については、品質維持にプライオリティを置きながら、ラオス北部5県へ販売網の拡大を図ります。2021年には中国・ラオス鉄道が完成することから、中国への輸出も視野に入れています。当社はこれまで基本的に独資で事業展開をしてきましたが、様々な事業を展開する中で、日本企業との協業の機会があれば、積極的に話を進めたいと考えています。



①同社保有のミカン園の様子。②たわわに実ったミカン。③ホテル向け飲料水。④ネラルウォーターやフルーツジュース。



## 弁護士から農園経営へ。

Dynamic Investment Co., Ltd.

Mr. Sivath Sengdouangchanh / CEO

【略歴】1966年生まれ、シェンクワン県出身。弁護士。幼少期に戦禍を避けるためビエンチャンへ移住。1992年ブルガリアソフィア大学法学修士、1998年ボンド大学国際ビジネス法修士。2008年まで司法省勤務。外資系法律事務所ラオス支社を経て、2017年に自身の法律事務所設立。2019年、農業法人 Dynamic Investment を設立。持続的なエネルギー開発を行う Dynamic Power にも出資。

栽培

輸出入

### 御社の事業内容は？

当社は農業生産を目的に設立した会社です。各々強みを持つ4社の合弁により、資本金300万ドルで設立しました。ラオス企業の Phosy Construction が農場開発と整備、私が経営する Sivath & Associates が経営と法務、金融機関の Business Commercial Investment (BCI) が資金調達、イギリスの Food Works が技術と国際マーケットを担っています。事業分野は農場運営と農業観光（アグリツーリズム）、育苗、ハウス栽培、農家への栽培委託、地域開発支援の5つです。自社農園としてラオス南部のボラベン高原に600ヘクタール、首都北部のバンビエン〜カシー地区に180ヘクタールの農地を確保しています。

### 実際の取り組みは？

標高1,200メートルと冷涼なボラベン高原では、アボガドの栽培を始めています。また、イチゴやブルーベリーの試験栽培も行っています。結果は良好で、ビニールハウス100棟を調達し、今後はベリー類の栽培も強化する計画です。更に、ドリアンやパッションフルーツ等の果物の栽培も近く開始します。当社の農場は栽培用地としてだけでなく、農業

観光や地域開発のための研修地としても活用していきます。バンビエン〜カシー地区ではリュウガン、マンゴスチン、ドリアン、マンゴー、アボガドなどの果樹類をはじめ、スイートポテトも栽培しています。こちらの農場でも農業観光の開発を進めています。また、タイの大手ビールメーカーと、ホップ生産の協議に入りました。ハウス栽培で生ホップを供給する計画です。この他、ラオス北部で中国国境に接するルアンナムター県でも、新たな農地の取得を検討しています。

### 他にもプロジェクトが？

出資企業の Food Works は、植物抽出物も取り扱っており、ラオスの豊富な植物資源のエキス抽出を研究しており、沈香や蘭、安息香、ウコ

ンなど抽出エキスの市場性を調査しています。特にウコンやサチャインチには大きな可能性を感じています。また、社会責務として地域開発を支援することも重要だと認識しています。農業技能実習として日本へ行く若者も増えており、帰国後の農業生活の手助けとなる、ハウスの貸し出しやトレーニング、資金アクセスなどを支援する計画です。

### 日本への期待は？

まずは市場として期待しています。特に良質なアボガドは是非日本に輸出したい商品です。また、日本企業との農業事業の提携を歓迎します。作物の購入の他にも、出資や技術提供を期待しています。土地のみを借地していただくことも可能ですので、是非ご相談ください。



①ボラベン高原のアボガド農場。②果樹の苗木。③バンビエン〜カシー地区のスイートポテト農場。④収穫されたスイートポテト。

所在地: No.145, Unit 08, Phonxay Village, Saysettha District, Vientiane Capital, Lao PDR  
電話: +856-21-419237  
設立年: 2019  
ホームページ: www.dynamicinvestment-laos.com/



## 乾燥野菜・果物の生産拠点。

### First Foods Sole Co., Ltd.

### Mr. Liao, Chin-Hua / Chairman

【略歴】1938年、台湾苗栗生まれの台湾人。高校卒業後にお茶事業をスタート。1972年から台湾で乾燥野菜、果物事業を開始。2013年にラオスに100%台湾資本で進出。

栽培

加工

輸出入

#### 御社の事業内容は？

当社は2013年に100%台湾資本で設立した乾燥食品の製造会社です。標高1,200mのボラベン高原に建つラオス工場では、20台のエアドライ（AD）、2台のフリーズドライ（FD）を導入し、自社栽培や周辺農家から調達した農作物を加工し、これらを主に台湾に輸出しています。自社農園としては23ヘクタール保有しており、青ネギ、シャロット、白菜、ショウガ、ハウレンソウ、玉ねぎ、ササゲなどを栽培しています。果物は主に農家から調達しており、ドリアンやパイナップル、バナナ、マンゴーなどを、ドライフルーツとして商品化しています。工場と圃場で50名のスタッフで運営しており、この内、台湾人は4名、中国人は1名です。工場はISO22000:2005（食品安全マネジメントシステムの国際規格）を取得しています。

#### どのような製品を？

当社の製品は主に即席麺などの加工食品に利用されています。現在はAD青ネギ20トン、ADハウレンソウ20トン、AD玉ねぎ20トン、FDササゲ5トン、FDドリアン3トンや、その他台湾市場が必要とす

る野菜や果物の乾燥食品を製造しています。尚、台湾にも工場を保有しており、中国福建省漳州には協力工場もあります。また、日本の食品系企業とは乾燥野菜の取引で、20年以上の実績があります。

#### ラオス投資のきっかけは？

これまで事業を拡大してきた中国では、残留農薬問題が顕在化し、水不足も深刻になりました。コスト上昇に伴い価格競争力も下がってきており、中国での事業展開は年々厳しくなっています。このため2016年に雲南省昆明の協力工場との連携を中止しました。ラオスは未汚染の土地が豊かにあり、自社栽培が可能なのが魅力で、既に進出していた台湾系コーヒー会社から紹介を受けて進出することにしました。

#### 今後の展開は？

2018年から本格的にウーロン茶の栽培と製造に取り組みました。ラオス国内でも販売を開始したところです。また、オメガ3や6が豊富でスーパーフードとして注目されるサチャインチなど、ボラベン高原の冷涼な気候に適した作物の栽培研究も進めていきます。

#### 日本企業への期待は？

乾燥野菜や果物のOEM・ODM生産を歓迎します。台湾本社は多くの日本企業との取引実績がありますので、ラオス工場でも日本への販売を増やしたいと考えています。お客様が希望する作物の試験栽培も行いますので、何なりとご相談いただければと考えています。



①バクソンの中心部に位置する乾燥工場。②自社農園での茶の栽培。③フリーズドライ乾燥機。④ササゲや白菜等の乾燥サンプル。

DATA

所在地：Thongkatay Village, Paksong District, Champasack Province, Lao PDR

電話：+856-31-211061

設立年：2013

ホームページ：www.laofirstfoods.com



## 在来植物資源を薬用ハーブに。 Herb Import-Export Sole Co., Ltd. Mr. Daosaway Xayyadeth / Director

【略歴】1981年生まれ、シェンクワン県出身。貧しい家庭だったため、夜はガードマンとして働きながら、Rattana Business Administration Collegeで経営学を学ぶ。2019年薬用ハーブの栽培加工輸出に特化した同社を設立。

栽培

輸出入

### 御社の事業内容は？

当社は薬用ハーブの栽培、加工、輸出に特化した事業を行っています。ラオスの警備サービス会社であるCSK Security Serviceの子会社として、2019年に設立されたばかりの新しい企業です。薬用ですのでオーガニックに特化し、人々の健康と環境に配慮した生産を行うことをモットーとしています。首都から北に50キロ程にある、ビエンチャン県トゥラコム郡ポーンカム村に、12ヘクタールの自社農園を保有しています。現在、黒ショウガの試験栽培を開始しており、日本への輸出を視野に、日本企業と協議を進めています。試験栽培が成功した暁には、当社が持つネットワークを活用し、栽培地をラオス各地へ拡大する計画です。

### 今後の展開は？

今後は自社の農地を増やすのではなく、委託栽培に協力してくれる農家を全国に確保していきます。警備会社を運営する中で、全国に農村出身者や少数民族の人材のネットワークを築くことができました。実際、当社の栽培責任者の副社長は、モン族出身者です。このような人材ネットワークを活かして、カムアン

県、ボリカムサイ県、サイソムブーン県、ホアパン県、シェンクワン県、ルアンパバン県などの農家への委託栽培を行うことが出来ます。栽培品種では、黒ショウガ以外にウコンやバルレリアなど、他の薬用植物の栽培も計画しています。ラオスは植物資源に恵まれており、まだまだ未活用の植物が多くあると考えています。モン族は伝統的に生薬を活用することに長けた民族で、様々な英知を有しています。当社でも新たな試みが出来ると期待しています。

### 親会社について？

親会社のCSKは公安省の認可を受けた、法人・個人向けの警備サービス企業です。学生の頃、学費を稼ぐためにガードマンの仕事をしており、この業界に興味を覚えたのがきっかけで起業したものです。当社のサービスは大きく2つに分けられます。ひとつめは法人向け警備サービスで、政府機関や民間機関、国際機関、大使館などが対象です。ふたつめは個人向けサービスで、住宅警

備と輸送警備があります。現在警備員の派遣先は80施設で、常時400名以上が勤務しています。本社はビエンチャンで、ボリカムサイ県とカムアン県にも拠点があり24時間対応可能です。既存事業の他に、最近では縫製工場を立ち上げました。まだ小さな工場ですが、主に警備員のユニフォームやカバンなどの備品を製造し、ラオス国内の多くの警備会社へ納品しています。また、保有する不動産資産の活用のため、現在アパートを建設中です。

### 日本企業への期待は？

農業部門に強い日本企業とのタイアップを期待しています。薬用植物のアイデアがあれば、是非とも相談していただければと思います。当社はオーガニック栽培に注力していますので、その観点で協業いただける企業を歓迎します。まだスタートしたばかりですが、ラオスの多様な植物資源を活かした事業は将来性が高いと考えています。是非ご相談ください。



①黒ショウガの栽培風景。②収穫した黒ショウガ。

DATA

所在地： #691/11, Unit41, T4 Rd., Donkoy Village, Sisattanak District, Vientiane Capital, Lao PDR

電話： +856-21-480-518

設立年： 2019

ホームページ：



## 農業の機械化を手助け。

### Inxythong Motor Import-Export Co., Ltd. Mr. Syvone Norasing / Director

【略歴】1966年、シェンクワン県生まれ。高校生の頃、地方の市場で日用品を仕入れ自転車で行商を始める。1990年頃よりタイから中国向けの自動車輸出入販売を行う。1998年サイアムクボタ製の農業機械の輸入販売を行うInxythong Trading (ITT)を設立、2007年トラクターを取り扱うInxythong Motor Import-Export (ITM)を設立。

農業機械

農業資材

#### 御社の事業内容は？

当社は1988年から農機具の販売とアフターサービスを行っており、耕耘機、トラクター、田植機などとアクセサリー類を扱っています。2002年にはサイアムクボタの耕運機、2011年には同じくサイアムクボタのトラクターや田植え機の正規代理店になっています。サイアムクボタの正規代理店は、ラオス国内に耕運機で20社程度、トラクターでは6社ありますが、当社はこの中でも首都であるビエンチャンを地域独占的に担当しています。現在、従業員数は約90名で、首都ビエンチャンの他、ボリカムサイ県にも正規販売店を保有しています。また、販売とアフターケアサービスだけでなく、リース部門を自社で有しているのも当社の特徴のひとつです。

#### 販売機械に特徴は？

当社が扱うサイアムクボタ製の耕耘機は、ラオスでは広く普及している製品で、ロングアーム型という特徴があります。耕運機としてだけでなく、アタッチメントを使用すれば揚水や脱穀などにも使用でき、トレーラー（荷台）を連結することで運搬にも使用できます。荷台部分は農家が自作することが多いため、

車輪や接続部などの部品も良く売れます。当社では年間約2,000台を販売しています。安価な中国製耕耘機に押されたこともありましたが、品質面が見直され、売上減少は一時的なことで済みました。トラクターは乗用型の24馬力から108馬力まで取り揃えています。以前は新規プランテーション開発用の大型トラクターの需要が多くありましたが、現在は50馬力が主力となっています。販売数は年間150台程度です。

#### 農機具市場の見通しは？

農家・農村の若い世代は、農業以外の産業で職を見つけることが増えてきており、人手不足から農業の機械化はますます進んでいくと見えています。農機具は伸びしろの大きな分野です。ただし、田植え機に関して

は、規格に沿った苗を準備する技術面や投資面でも難しさがあります。普及にはしばらく時間がかかると考えており、田植機ではなくトラクターへの直播用アタッチメントを試している所です。トラクターは販売後のアフターケアが重要で、メンテナンスの方法を指導するなどきめ細かなサービスを行っています。

#### 日本企業への期待は？

当社はサイアムクボタの正規代理店ですが、同社のラインナップに無い製品については、他メーカーの取り扱いも可能です。農業機械や農業関連資材など、良い製品があれば是非ともご紹介下さい。また、農業とは別となりますが、日本の小型自動車の販売にも興味があります。こちらも是非ご相談ください。



①ビエンチャン市内のトラクター販売店。②販売店の事務室。③トラクターのメンテナンスルーム。④豊富な部品在庫でアフターサービスへの対応も充実。

DATA

所在地：ASEAN Road(T2), Nongduang Nuea Village, Sikhottabong District, Vientiane Capital, LaoPDR

電話：+856-21-520228

設立年：2007

ホームページ：



## 農業観光で地域振興を目指す。

Khampay Sana Agricultural Development Co., Ltd.

Mr. Khampay Somsana / CEO

【略歴】1956年、シェンクワン県生まれ。戦時中で貧しい中12歳で小学校に入学。24歳まで農業を営み、ビエンチャン都へ移住後は衣服の行商、トラックタクシー運転手。1990年小規模家具工場を創業、1999年建設会社を創業し事業を拡大。現在、ラオス商工会議所理事、都商工会議所理事、ラオス家具協会会長を務める。国家経済建設の功労者として第1級開発勲章を受勲している。

林業

観光

### グループの事業内容は？

Khampay Sana Group は建設業を中核事業に据え、住宅建設、インフラ建設、家具製造、コンクリート製造、農林業、観光、不動産開発、金融、水力発電所開発など、幅広く事業を行っています。2019年には1,600万ドルを投じた11階建ての自社ビルを竣工しました。現在、グループ従業員は約500名です。

### 農林業について教えてください？

農林業に関しては、Khampay Sana Agricultural Development (KPRD) というグループ傘下の法人を1990年から手がけています。ビエンチャン都とビエンチャン県に跨る4,000ヘクタールに及ぶ大地に、チーク、紫檀、アカシア、ユーカリなど、工業用を中心に約400万本を順次植林してきました。また、高価な香木として知られる沈香の植林も160万本に達しています。これらは当グループの大きな財産となっています。また、首都センディン村では牧草栽培と牛のファーム事業を展開しています。当グループでは観光事業にも力を入れています。ビエンチャンに近いタートソーンの滝周辺に、6,000ヘクタールの開発権を政府から取得し、自然観光をテーマ

に開発を進めています。このような実績をもとに、農業観光で地域振興を目指す取り組みも始めています。

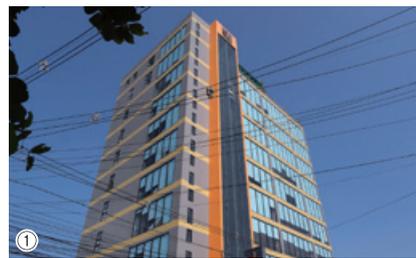
### 農業観光の取り組みは？

少数民族のモン族が多く暮らす地域で、ラオスでも最も開発の遅れた地域のひとつであるサイソムブーン県の開発を政府から依頼されたものです。2019年から可能性調査とパイロット事業を始めました。ここでは、農業と観光の2本を柱にしています。農業では68世帯の農家と協力して約140ヘクタールで牧草の栽培と肉牛を中心とした畜産を開始しています。今後はトウモロコシ、野菜などの栽培へ拡大する計画です。また観光では、ラオス最高峰のプーピア山(2,823m)の眺望やラオスヒノキなどの豊かな森、またア

ヌヴォン洞窟やモン族のホームステイなど、環境保全型のエコツーリズムを準備中です。建国以来、40年以上開発が止まっていた場所ですので、地域の自然や文化を守ることを大前提にしています。

### 日本企業への期待は？

農業観光事業への協力を期待します。日本の資金やノウハウを活かした協業は大歓迎です。その他にも、首都近郊やビエンチャン県での農林業開発も進めていきたいと考えています。例えばビエンチャン県の300ヘクタールの資源を活用して、日本向けの白炭(ラオス備長炭)生産も検討している所です。当グループは様々な事業を手掛けていますので、農林業以外の分野でもパートナー関係の構築を歓迎しています。



① 2019年には11階建ての自社ビルを竣工。②タートソーン滝のエレファントライディングは観光事業のコンテンツのひとつ。③工業植林。④プーピア山観光化調査の様子。

DATA

所在地: Thongsangnang Village, Chanthabouly District, Vientiane Capital, Lao PDR

電話: +856-21-217069

設立年: 1990

ホームページ:



## グループの強みを農業でも。

K.P Co., Ltd.

Mr. Khemsath Philaphandeth / President

【略歴】1950年生まれ、ビエンチャン出身。生まれてすぐにタイに行き、その後日本で生活。天理大学で日本語を学ぶ。1988年に帰国し、現グループの前身となる家業を継ぐ。ラオス柔道連盟会長。ラオス商工会議所理事も努める。2018年、日本・ラオス間の経済関係強化及びラオスにおける柔道の普及に寄与したとして旭日小綬章を受勲。

農業資材

農業機械

栽培

加工

### 御社の事業内容は？

K.Pグループは私の父が1940年に創業したKhambay Philaphandeth社が前身となっています。グループ中核企業であるK.P Co., Ltd.は、ラオスの経済開放政策の中、1995年に設立されました。グループの企業数は16社。総従業員数は2,000名以上です。トヨタやスズキなどの自動車販売、ヤマハのバイク販売、各種製造、物流、設備・保全、人材サービス、食品など、多岐にわたる事業を展開しており、多くの事業は日本の企業との合弁で行われています。

### 農業関連事業は？

1975年の革命前は製材や養蚕、サトウキビ事業などを進めていました。その後しばらく中断していましたが、現在様々な農業関連事業を進めています。ビエンチャン郊外では竹、ユーカリ、ビルマカリンなどの植林を毎年進めています。現在約7万本、2020年までに10万本の植林を目指します。また、2012年からは日本企業と提携し、キュウリの塩漬を生産しています。更に、ラオス中部のダム開発の移転村を対象に、農業支援事業も開始しています。将来的には玉ねぎなどの商業生産へ結びつける狙いです。また、南部セコ

ン県では、60ヘクタールの農地開発を行う日系企業へ出資し、高付加価値農作物の栽培を進めることで合意しています。この農地を通して、ラオス人農業技術者の育成にも努めていく計画です。

### 農業機械や資材事業は？

南部サワンナケート県では、10年前からサイアムクボタの正規ディーラーとして輸入販売を行っています。耕運機やディーゼルエンジンは年1,000台、トラクターは年150台ほどの販売実績です。化学肥料ではタイのチアタイ社及びテラグロ社と独占代理店契約を締結しています。全国の農業資材店をはじめ、サトウキビやキャッサバ農場への販売が中心です。また、チアタイからはキャベツや葉野菜など、様々な種苗の輸

入販売も行っています。小袋入りのパッケージ商品で、農業資材店だけでなく、耕運機の販売ネットワークを活用して販売しています。

### 日本企業への期待は？

小型の農業資材や機具は、タイや中国から国境貿易で流入する製品との競争が厳しい点が課題ですが、使い勝手の良い商品は大歓迎です。また、セコン県の農場では、日本企業から試験栽培の委託も歓迎しています。K.Pグループは国内外をカバーする物流部門も保有しており、ワールドチェーンに対応していることも強みです。ラオスは農業に適している土地に恵まれています。農業や食品加工、農業資材や機械など、新たなアイデアがあれば是非とも相談して頂ければと思います。



①②タイから輸入した化学肥料。③種苗。④国内有数の配送網を有する。

DATA

所在地：13 North Avenue, Sikhottabong District, Vientiane Capital, Lao PDR

電話：+856-21-240892-3, 254655-6

設立年：1995

ホームページ：<http://www.kplaocompany.com>



## 製薬とタピオカ澱粉事業を展開。

### KPN Pharma Sole Co., Ltd.

### Ms. Kongphat Thavitham / President

【略歴】1960年生まれ、ピエンチャン出身。革命家の両親に伴われ、幼少期を北東部のシェンクワンやサムヌアで過ごす。1969年から6年間ベトナム・タインホア省で学ぶ。革命後の1975年からサムヌアで会計を学びトップで卒業。1978年都財務局職員、1980年都木材伐採公社経理。1985年に独立し食品・日用品の輸入事業。1992年製薬工場を設立。2010年タピオカ澱粉工場を設立。

加工

栽培

輸出入

収入機会にも貢献できたことは素晴らしい成果です。

### 日本企業へメッセージを

製薬とタピオカ澱粉製造の両事業の持続的な発展を、第一目標と定めています。タピオカ澱粉の生産能力は、日産90トンから150トンへ拡張することを計画しています。国内・海外ともタピオカ澱粉の需要は堅調ですが、ラオス国内における資金調達は利息が高いため、資金力や技術力のある日本企業からの出資は大歓迎です。また、新たに有機タピオカ澱粉の生産も検討していますので、原料としてご興味がある企業があれば、ご相談頂ければと思います。製薬事業では、新商品としてタマリンドジュースの生産を計画しています。胃腸に優しい健康飲料として国内でも注目されており、健康志向が高まりつつあるラオスで需要が見込まれます。

### 御社の事業内容は？

当社は1992年に製薬会社としてスタートしました。現在は製薬事業に加え、タピオカ澱粉製造事業や不動産開発事業にも進出しています。現在、製薬事業では50名の従業員、タピオカ事業では70名の従業員を雇用しています。

### タピオカ事業について？

ラオス南部のチャムパサック県ウトゥムボン郡にタピオカ澱粉の製造工場を設立し、2010年から本格生産を開始しました。澱粉生産能力は1日90トン、年間では約2万トンになります。品質マネジメントシステム(ISO9001:2008)を取得しており、国内販売のみならず、中国、台湾、ベトナム、パキスタン、タイ、イタリアなどへ輸出しています。2018年は約350万ドルの売上を見込んでいます。原料となるキャッサバの調達には、200ヘクタールの自社農場だけでなく、総面積1,400ヘクタールの周辺農家からも買い付けています。本事業を開始した当時、ラオス南部ではキャッサバ栽培はほとんど行われていませんでしたが、今では国の重要な輸出産品となっています。当社が進めたキャッサバの栽培普及活動が実を結び、地域農家の

### 製薬や不動産事業は？

製薬事業では、抗生剤や風邪薬などの新薬だけでなく、桑茶などを利用した伝統薬も製造しています。2006年には新工場が完成し、新薬では錠剤、シロップ、軟膏など約60品目をラオス全国に供給しています。原料はインドや中国から輸入しています。2009年には品質マネジメントシステム(ISO9001:2008)とGMP(適正製造基準)を取得し、年間売上は約130万ドルです。不動産開発事業では、2019年よりニュータウン開発事業を開始しています。日本企業との合弁で進めており、2021年には108棟の完成を見込んでいます。



①工場には収穫されたキャッサバが積み上げられている。②作付けされたキャッサバ畑。③タピオカ澱粉工場。④ラオス国内で広く流通する医薬品。

DATA

所在地: 12 Ban Xiangda, Dongkhamxang road, Saysettha District, Vientiane Capital, Lao PDR

電話: +856-20-55511240

設立年: 1992

ホームページ: <http://www.kpn-pharma.com>



## 缶詰・瓶詰めで輸出拡大を目指す。

## Lao Agro Industry Co., Ltd.

## Mr. Khamphaphayvan Vongxay / General Manager

【略歴】1980年、ビエンチャン生まれ。2003年ラオス国立大学農学部卒、2009年タイのコンケン大学大学院卒。2015年まで農林省農林研究所ハートドクケオ花卉園芸研究センターに勤める。2015年より創業者の父親の経営する同社に勤務。2019年アセアンプラスアワード (Best Biz and Product) を受賞。

加工

栽培

輸出入

## 御社の事業内容は？

当社は1995年にラオスとタイ企業の合弁で設立された食品加工会社です。2015年からはラオス資本を95%に増やしています。現在、スイートコーンの缶詰、シロップ漬けシュガーバームシード、ニンニク漬け、100%パイナップルジュース、スイートコーンミルクの6品目を生産しています。クーン村にある当社工場はHACCP、GMP、BRC（英国小売協会グローバル基準）など、主要国際基準を取得しています。従業員は60人から300人と季節により増減があります。また、別会社では肉牛200頭、鹿250頭を飼育するファームを運営しています。

## 製品の販売先は？

スイートコーン缶詰はイギリスを中心に年間2,000トン程度輸出しています。原料となるスイートコーンは、ビエンチャンやボリカムサイ県の農家と栽培委託契約し、当社で買い上げ缶詰に加工しています。また、スイートコーンミルクは国内市場向けの飲料として開発し、スーパーやコンビニ、個人商店、学校、病院などラオス全国で販売しています。2019年からはタイへの輸出を開始し、東北タイを中心に販売して

います。年間250万本を生産しており、現在は国内市場向けが9割を占めています。シロップ漬けシュガーバームシードはサトウヤシの一種の種子で、農家から買い付けプラスチック容器に詰めたもので、タイ、マレーシア、ベトナム、カンボジアへ年間1,200トン程度を輸出しています。ニンニク漬けは国内市場向けに年間20トン程度製造しています。100%パイナップルジュースは年間約50トン製造し、ラオス国内のみで販売しています。原料はビエンチャン、ボリカムサイ、ルアンパバンの農家から買い付けた、良質なパイナップルの果実だけを使用しています。

## 今後の計画は？

まずは現在ある6品目のビジネ

ス拡大に注力していきます。特に100%パイナップルジュースの原料はラオス国内で広く生産されており、1,000トン程度まで拡大することが可能です。日本向けにも輸出を行うことが出来ればと考えています。日本市場向けにはパッケージや品質管理でハードルが上がると思いますので、一緒に解決してくれるパートナーに期待します。新たな商品開発としては、ワサビやオーガニック作物に興味を持っています。特にワサビはラオスで栽培が可能ですので、当社で加工し日本食文化が広がる国へ輸出できれば面白いと考えています。また、オーガニック製品の加工は、認証の取得など難易度は高いかもしれませんが、新たな市場作りのために是非取り組みたいところです。その他、日本企業が求める作物があれば対応していきます。



①スイートコーンの集荷風景。②クーン村の工場。③商品群。④国内向けスイートコーンミルクのパッケージ。

DATA

所在地： Ban Kern, Thourakhom District, Vientiane Province, Lao PDR

電話： +856-20-5565-5239

設立年： 1995

ホームページ：



## バイオディーゼルを独占供給。

### Lao Agro Tech Public Company

#### Mr. Oudom Keothavong / CEO

【略歴】1984年、シェンクワン県生まれ。2007年ラオス国立大学卒。卒業後、環境省 GMS（グレートメコンサブリジョン）事務局にて3年間勤務。2008年同社を設立。2010年より独立し専任となる。

加工

栽培

輸出入

600トン程を輸入販売しています。

を販売しています。

#### 御社の事業内容は？

当社はパーム椰子の栽培を行い、パーム油やバイオディーゼルの生産をしています。2008年にラオス資本100%でスタートしましたが、2013年にタイ資本の参加を受け、2018年には農業企業としては初めて、ラオス証券取引所へ上場しています。現在職員は75名です。当社が参入する以前、ラオスではパームヤシの栽培は行われておらず、当初5年ほど掛けて当地の気候に適した品種改良を行い、「ラオヴィエン」という品種を育種することが出来ました。農家への栽培普及も進めており、現在までにビエンチャン県やサイニャブリ県、サラワン県などで、自社農園の400ヘクタールと合わせ、1,800ヘクタールのパームヤシを植林してきました。

#### 販売製品について？

収穫したパーム椰子を搾油し製品へ展開しています。その大部分、月4,000から5,000トン、B5クラスのバイオディーゼルの原料となります。月に100トン未満ですが、飼料添加物として飼料工場へも供給しています。また、マレーシアやタイの工場に、当社ブランドの食用パーム油をOEM生産委託しており、年

#### バイオディーゼルの需要は？

通常のディーゼル燃料よりも、バイオディーゼルは平均で200から300キープ安くなるため、ラオス国内で高い需要を保っています。中でも、ユーロ4の基準を満たす、5%濃度のB5クラスは、当社がほぼ独占的に月200万リットルを国内販売しています。原料となるパーム油は自社製造に加え、タイからも調達しています。ディーゼル燃料も当社で輸入ライセンスを保有しており、全て自社でコントロールできる環境です。現状では供給が間にあわず、発電や鉱山等のプロジェクトベースで、契約をした顧客にのみ販売しています。トラックでの使用など更にコストダウンを図る顧客には、B40

#### 日本企業への期待は？

ラオス政府は2025年までに全エネルギーの10%を、代替エネルギーへ転換する計画です。当社では、2025年までにパーム椰子の栽培面積を2万ヘクタールに拡大し、一般ガソリンスタンドでB5の販売を進めます。日本企業に期待するのは技術です。具体的には、高品質のバイオディーゼルをより低コストで生産できる技術や、発電のために搾油残渣でバイオガスを生産するノウハウなどです。また、ラオス南部サラワン県で、アカシア栽培の調査を実施しています。木質バイオマス発電の原料として想定しています。本事業にご興味がありましたら、是非ともご連絡ください。



①パームヤシの新品種「ラオヴィエン」。②パームヤシの育苗場。③収穫されたパームヤシの実。④2018年にはラオス証券取引所に上場した。

DATA

所在地： Wattainoy Thong Village, Sikhottabong District, Vientiane Capital, Lao PDR

電話： +856-21-520715

設立年： 2008

ホームページ： <http://laoagrotech.com/>



## ラオス産牛乳で児童の栄養改善を。

### Lao Dairy Farm

### Ms. Sengmany Yathotou / CEO

【略歴】1989年生まれ、ビエンチャン出身。国立司法学院（法学学士）卒。1年間シンガポールでの英語留学の後、2016～2017年北京の対外経済貿易大学（国際貿易法修士）に留学。父は元農林省副大臣カムバート・スリンブーミー氏、母は現国会議長のパニー・ヤトトゥ女史。

畜産

栽培

加工

#### 御社の事業内容は？

ラオ・デイリー・ファームでは酪農事業と乳製品加工を行っています。元々は私の父の趣味で、2012年にオーストラリアから16頭の乳牛を導入して始めたものですが、良質な牛乳が徐々に評判を呼び、2015年に本格的に事業化するに至りました。現在、首都ビエンチャン郊外で、125頭の乳牛を飼育しています。搾乳量は1日約450リットル。生乳の他、低温殺菌牛乳、ヨーグルト、ヨーグルト飲料を生産しています。生乳は乳製品メーカーや洋菓子店が主な納入先です。低温殺菌牛乳やヨーグルトはミニマート等への卸販売だけでなく、家庭への宅配サービスも開始しています。また、ビエンチャン市内には、「ラオ・ミルク・カフェ」という手作りスイーツ店を2店舗展開しています。

#### 乳牛飼育の難しさは？

ラオスのように暑い気候の国では、乳牛飼育には細心の注意が必要です。現在はタイで育種された品種（ホルスタイン・フリーシアン）を導入しているため暑さには強いですが、それでも1日3回は水浴びや清掃が必要です。また、当ファームでは配合飼料は一切与えていません。

ネピアグラスという栄養価の高い牧草を栽培しており、国産大豆、トウモロコシ、ビール粕、稲わら、米ヌカなどと乳酸発酵させた独自の飼料を使用しています。周辺国で生産されている牛乳に比べて、安全で美味しいと好評を得ています。

#### 加工製品について

加工製品は「Lao Milk」というブランドで統一しています。摂氏4度で7日間保存可能な低温殺菌牛乳は、パストライザー（充填後殺菌）装置を導入しており、1日に1,000リットルの生産が可能です。ヨーグルトは当ファームで最も人気がある商品です。ラオスでも販売されているタイ製のヨーグルトは甘みが強いのが多いですが、ラオス人は糖分が少ないヨーグルトを好みますの

で、当社の製品も甘さ控えめにしています。ヨーグルト飲料はパッションフルーツ味が人気です。

#### 今後の計画は？

現在、チェダーチーズなど3種のチーズ開発を進めています。ホテルやレストランがターゲットになりますが、お土産品や輸出商品としても販売する計画です。また、消費期限が半年になるロングライフミルク（UHT乳）も導入したいと考えています。これにより、ラオス全国へマーケットの拡大が期待できます。また、当ファームではラオスの公立小学校へ牛乳の無料配布キャンペーンを開始しています。ラオスの子供たちの栄養改善を目的としたものです。この活動へのスポンサーを募集しています。



①タイで育種されたホルスタイン・フリーシアン。②搾乳の様子。③飼料の原料となるネピアグラスの収穫。④小学校への牛乳の無料配布。

DATA

所在地：Naxaithongnuer Village, Naxaithong District, Vientiane Capital, Lao PDR

電話：+856-20-56699788

設立年：2012

ホームページ：www.facebook.com/LaoDairyFarm



## 全国の農業生産者組織を束ねる。

### Lao Farmer Network

#### Mr. Khammoune Xaimany / President

【略歴】1954年、ビエンチャン県生まれ。教員学校卒業後、1978年から中学校の数学教師を務める。1994年退職し専業水田農家となる。篤農家として選出され、インドネシア、マレーシア、中国などへの研修機会を数多く得る。稲の低投資・高収量栽培技術(Beautiful Wife Rice Cultivation法)考案者。2014年 Lao Farmer Network 設立時に会長に選出。

#### 組合

#### 組織について教えてください

Lao Farmer Network (LFN) は全国の篤農家が集まって発起した非営利法人で、ラオス全国の農業生産者組織を束ねるネットワークです。2014年に11県20組織が参加してスタートし、現在は13県47組織、約3,700戸の農家からなるネットワークへ成長しました。国際機関等のドナーの支援を受けながら、米、コーヒー、野菜、畜産養魚の4部会に分かれて活動しています。理事は7名、事務局職員は9名体制で運営しています。加盟組織に対しては、組織運営の強化、情報や技術、ファイナンス等のサービスを提供しています。更に、イノベーション技術や製品開発支援、さらにマーケットの紹介を行っています。2016年に持続可能な農村開発のためのアジア農民連合会(AFA)に加盟しました。

#### 具体的なサービスは？

LFNでは農業分野におけるICTの活用に重点を置いており、農業関連情報の提供に努めています。組織間や農業普及員からの直接指導の他にも、YouTubeチャンネルを開設し、農業技術を動画で紹介しています。また、Facebookやスマホの簡易メッセージアプリを活用した会

員組織間の情報交換などを通して、マーケット価格などの情報共有もしています。ファイナンス面では約20万ドルの基金を設立し、資金が必要な生産者組織に貸し出しています。年利は4%ですが、生産者組織内で独自に1%の追加も認めています。この追加金利は将来その組織が設立する基金の原資となります。

#### 技術開発での取り組みは？

より付加価値が高い加工製品の開発支援を行っています。具体的には新製品の開発技術支援、帳簿管理、マーケティングの指導に加えて、初期投資を基金から無償で捻出しています。これまでにコーヒー残渣を活用した石鹸やキムチの製品化、コメのブランド化事業などを実施してきました。事業を拡大する際には、全

投資額の70%まで基金から融資する仕組みも備えています。また、低コストで効果的なイノベーション技術の導入のために、情報提供のみならず基金からの資金提供も行っています。例えば、野菜栽培グループに対しては、無電力の低温貯蔵庫や共同ビニールハウスの初期建設費用を無償支援しました。

#### 今後の展開は？

今後もラオス全国で生産者組織の会員数を拡大させ、農家組織の強化に努めていきます。生産者にとってマーケットへのアクセスは死活問題です。このため、企業と農家をつなぐことは重要な役割です。LFNは農家組織と企業の間立ち、両者が公平に取引を行うことが出来るように調整しています。



① LFNの事務所。②基金の支援で開発したコーヒー石鹸。③コメのブランド化による新パッケージ。④コーヒー豆。



## フェアトレードで貧困改善を目指す。

### Lao Farmers' Products Co., Ltd.

### Dr. Sisaliao Svengsuksa / President

【略歴】1940年生まれ、アタプー県出身。ビエンチャン高校卒業後、フランスのボルドー大学で地理学の博士号取得。ラオス帰国後は大学で教鞭を取る傍ら政府機関に勤務。1988年にNGOを創設し、1997年の同社設立に繋げる。事業を通じて、生活向上・貧困削減などを目的に活動。「ASEAN Leadership Award on Rural Development and Poverty 2013」受賞。

加工

栽培

輸出入

#### 御社の事業内容は？

当社はフェアトレードの理念に賛同し、貧しい生産者が作る加工食品等を販売する企業です。当社の前身はフランスとベルギーの支援を受けたNGOで、貧困層向けの人材教育を行っています。事業を支援するため、マイクロ・ファイナンスも立ち上げ、彼らの商品の販売支援するのが当社の事業目的です。現在、お茶、蜂蜜、ジャム、コメ、果実ジュース、キャンディーなどを中心に、約30種類の商品を販売しています。国内販売価格は、ライムなどの果物のジャム(275g)が2万キープ、桑茶ティーバッグ(200g)が8万キープ、はちみつソーブ(1個)が1万6,000キープです。パッケージングは当社で一括して手作業で行っています。従業員数は約40名ですが、繁忙期には80名ほど雇用しています。

#### オーガニック認証は？

タイの機関(OACT)から、お茶とコメのオーガニック認証を受けています。お茶は114世帯全ての契約農家で、コメは282世帯中44世帯の農家で認証を取得しました。これら契約農家は、我々のNGOで教育を受けた農家です。コメは対象とな

る耕作地だけでなく、周辺の農薬使用も審査されるため、認証取得は困難です。ラオス国内で国際的なオーガニック認証を取得した商品を販売している事例は珍しいと思います。

#### 主な販売先は？

フランスを中心にベルギー、ドイツ、スイスなど、商品の80%はEU向けに輸出しています。ジャムやオーガニック商品が人気で、「本物の果実の香りがする」と評判です。EU向け輸出では、フェアトレードの理念に基づき、卸値や販売価格を取引先にも知らせています。国内ではビエンチャン市内のミニマートやスーパーマーケットで販売しており、ルアンナムターやルアンパバーンなど、地方都市でも販売実績があります。タマリンドのキャンディー

が人気で、「一郡一品運動(OODOP)」の指定商品となっています。

#### 日本企業へメッセージを

当社は設立以来、常に貧しい農家と契約し、彼らの貧困脱却を目標とした事業を展開しています。日本企業には、まずは我々の活動を支援するための資金援助を期待します。新規市場開拓として、日本向けの輸出も考えており、マーケティングや商品開発などのノウハウを含めた提携パートナーも求めています。但し、強調したい点は、当社は利益だけを目的としていないことです。「国民の生活を向上させ、貧困を改善する」という理念に共感して頂ける日本企業と提携できればと思います。フェアトレードに関心がある日本企業があれば、是非当社に問い合わせ下さい。



①ビエンチャン市内の本社。工場とショップも併設。②直営店の店内。定期的に新商品も販売している。③パイナップルなどの果物ジュースも充実している。④桑の茶ティーバッグ。

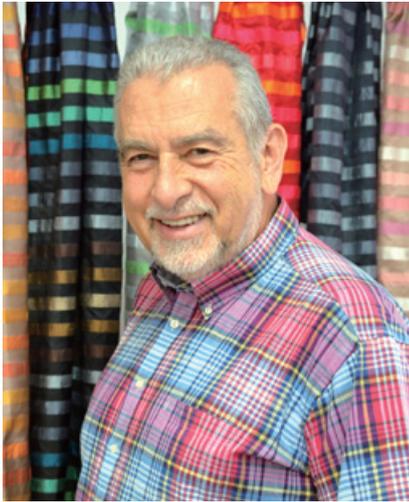
DATA

所在地： 58, Mittaphab Lao-Thai road, Ban Phonpapao, Sisattanak district, , Vientiane Capital, Lao PDR

電話： +856-21-312886

設立年： 1997

ホームページ： <http://www.laofarmersproducts.com>



## 農業で地域を豊かに。

### Mai Savanh Lao Co., Ltd.

### Dr. Philippe Schmidt / CEO

【略歴】1952年、仏ストラスブール生まれ。1979年ルイ・バスツール大学卒、1985年外科医資格取得、1990年救急外科医資格取得。1995年NGOに参加しチャドで医療指導。1999～2007年ラオス保健大臣の要請を受けてNGOで友好病院・地方病院などを支援。2005年同社設立。現在もフレンチクリニックで緊急外科を執刀する。

栽培

加工

輸出入

#### 御社の事業内容は？

当社は私と妻に他の2名を加えた4人で、2005年に設立した外資企業で、シルク織物の製造販売、養蚕とシルク製糸を中心とした事業を行ってきました。首都ビエンチャンに工場があり、南部セコン県に25ヘクタールの自社農場を保有しています。2015年からは養蚕用の桑の栽培だけでなく、ハイビスカスやサチャインチ、コショウ等の栽培・加工に事業を広げています。原料は自社栽培に加え、栽培普及を行った農家からも買い付けています。現在、スタッフは食品加工に25名、シルク織職人5名、農場に18名が常駐しており、更にセコン県、チャムパサック県、ルアンパバン県、ルアンナムター県、ボケオ県の農家2,000世帯と契約しています。GMPや世界フェアトレード連盟(WFTO)の認証を取得し、現在ハラール認証の申請をしています。

#### 主な商品は？

オメガ3や6が豊富で、栄養価の高いスーパーフードと呼ばれるサチャインチの種子から、バージンオイルやパウダーを製造しています。オイルは月に8,000から1万リットル生産し、8割をアジア諸国、2割

をヨーロッパへ輸出しています。搾油後に出来るパウダーは62%の高蛋白で、全必須アミノ酸を含んでおり、栄養食品として高い需要があります。ハラール認証取得後は、中東やマレーシア市場へも輸出を行う予定です。5年から10年と多年生のサチャインチは、病気に強く栽培が容易で、1ヘクタールから年約1トンの種子を収穫することができ、農家の所得向上に大きく役立っています。当社ではサチャインチの焙煎ナッツやバター、スナックバーも製造しています。コショウは6ヘクタール程自社栽培を行っています。黒・白胡椒の他、塩水漬け・オイル漬け生胡椒を製造しています。他にもウーロン茶、桑茶、ハーブティーや、ピューレ、飲料、茶などのハイビスカス製品も製造・販売しています。また、当社ではCSRとして自社製

品を活かして、地方の子供の栄養改善にも積極的に取り組んでいます。

#### 今後の計画は？

現在、ラオス国内企業と取り組んでいるのは、チョコレートでコーティングした乾燥バナナの製品化です。原料のバナナは国内調達は容易で、多彩なフレーバーを研究しています。ラオス国内で本格的に展開する計画で、将来的な輸出も考えています。また、南部に自生するマクケーンと呼ばれる山椒の一種も、新商品として販売を始めたところです。サチャインチのオイルは200リットルからOEMにも対応しており、日本からのオーダーにも期待したいです。胡椒等の商品群の輸出も可能ですので、日本企業が期待する作物があれば是非相談ください。



①自社農地の胡椒畑。②ヨーロッパ向けの胡椒パッケージ。③ハイビスカスの処理。④サチャインチオイルとバター。

DATA

所在地：BP7710, Vientiane Capital, Lao PDR

電話：+856-20-2241-9940

設立年：2005

ホームページ：<https://maisavanhlaos.com/msl/fr/>



## 南ラオスから世界の無農薬市場へ。

### Mekong Joint Venture Co., Ltd.

#### Mr. Tran Sy Thinh / Chairman

【略歴】1974年、ベトナム・ハティン生まれのベトナム人。1995年から2002年までに、ハノイ国立大学（地下建設学士）、ハノイ外国語大学（英語学士）、南コロンビア大学ハノイ校（MBA）卒。ベトナムのゼネコンで水力発電所の管理（1996～2001年）、カナダ系鉱山会社でレアメタル鉱山プロジェクト管理（2002～2007年）を経て独立。コンサルタントとして活動。2012年トウモロコシ乾燥工場（Mekong Joint Venture）を設立。

加工

栽培

輸出入

畜産

### 御社の事業内容は？

当社は2012年にラオス人の妻と私が設立した合弁企業です。セコン県の100ヘクタールの土地を政府からコンセッション（借地）し、飼料用トウモロコシの栽培、乾燥事業からスタートしました。2015年からは、肉牛の飼育やコーヒー栽培に取り組んでいます。2018年には新たにLao Organic Food and Fruit Joint Ventureを設立し、サトウキビの栽培とオーガニック砂糖（ジャガリー）の製造を開始しています。飼料用トウモロコシは、周辺農家の水田の裏作として栽培委託しています。当社で乾燥処理し、飼料工場などに販売しています。2018年は1万7,000トン販売し、タイやベトナムへの輸出実績もあります。飼料市場の需要は旺盛で、当社の生産量も年10%程度増加しています。また、飼料用トウモロコシの自社活用のため、オーストラリア品種100頭を輸入し、肉牛の飼育を開始しました。現在は380頭まで増え、牧草のネピア牧草栽培も、15ヘクタールまで広がりました。カティモ種のコーヒーの栽培も行っています。

### オーガニック砂糖について？

世界的にオーガニック砂糖の需

要が高まっています。ベトナムでは既にオーガニック栽培が難しくなりましたが、当地域は農薬未使用の土地が多く、オーガニック栽培には最適です。現在、当社農地の内70ヘクタールでサトウキビを栽培し、製糖工場でジャガリーを製造しています。EU及びUSDAのオーガニック認証を取得済みで、現在はベトナムへ輸出しています。糖蜜はオーガニックミルクを生産するベトナム企業へ輸出し、畜産用の栄養剤として使用されています。

### 今後の展開は？

2018年にセコン川周辺の土地200ヘクタールを新たにコンセッションしました。今後はジャックフルーツ等の果樹や大豆のオーガニック栽培を進めていく予定です。また、セコ

ン県政府からベトナム国境近くのダクチュン地域の土地200ヘクタールの供与を打診されています。ここではオーガニックコーヒーの栽培を見込んでいます。今後もオーガニック市場は拡大していくと見えています。

### 日本企業への期待は？

日本人の厳格な仕事のスタイルを尊敬しており、是非一緒に仕事をしたいと考えています。新しいアイデアがあれば是非とも相談ください。当社以外にも、貿易業を行うMekong Trading Export-Import JVを運営しており、輸出入業務を受託しています。また、ベトナムのホーチミン市には兄弟が運営する輸出入会社があり、ベトナム側の送り出し・受け入れ拠点としての活用が可能です。



① 70ヘクタールのサトウキビ農園。② ジャガリーを製造する製糖施設。③ 肉牛の飼育。④ 砂糖のラオス国内向けパッケージ。



## 農業、生鮮市場、物流拠点の開発。

### Mittaphab Development Agriculture Co., Ltd. Mr. Salaksone Korasack / Vice Director

【略歴】1991年生まれ、ビエンチャン出身。2009～2014年中国蘇州大学留学（国際金融学士）。2014～2016年ラオス日本センターでMBAを学ぶ。創設者で会長の父 Phouvong 氏の三男にあたり、Lao Samay Group では GM を務める。

栽培

観光

#### 御社の事業内容は？

当社は Lao Samay Group (LSG) の農業部門を担う子会社として2003年に設立しました。ビエンチャン郊外にある第1友好橋近くのサラカム湿地帯で、農業やアグロツーリズムをはじめとした開発事業を行っています。親会社となる LSG は1991年に設立の会社で、建設、不動産開発、水力発電ダム開発を中心に手掛けています。1994年には農業事業をスタートし、ティラピア養殖や養豚、野菜栽培など様々な事業を展開してきました。父でありグループ会長の Phouvong は、ラオス農業加工協会会長を務めています。

#### サラカム湿地の開発とは？

自社の土地に加え、2014年にビエンチャン都庁から70年間の長期借地を受けた、148ヘクタール地域の湿地帯を複合的に開発する事業です。①農業・観光、②住宅、③市場、④物流ハブ、⑤サービス（学校、病院、オフィス等）の5つの柱に区分して開発を進めています。この内、農業・観光ゾーンでは、既に2ヘクタールを開発済みで、今後5ヘクタールまで拡大する計画です。湿地帯ですので、養魚池も40池保有しています。農業ではビニールハウス

4棟（約1,000平米）で、サラダ菜などを水耕栽培しています。また、2015年には日系企業と提携し、1.5ヘクタールでバタフライピーの栽培に着手しました。このエリアは都心部に近く、野菜のハウス栽培に適しているため、今後は施設栽培に注力していく予定です。また、景観が良いことから、レストランや娯楽施設を整備し、アグロツーリズムやスポーツ施設など、憩いの場としても活用していきたいと考えています。市場開発では全6ヘクタールの土地を開発する計画で、2019年には第1期として1棟3,000平米の生鮮市場をスタートさせました。今後6棟にまで拡大させ、首都南部地域の卸売市場とする計画です。タイ国境の第1友好橋に近いので、物流ハブとしての開発も進め、倉庫施設の建設も並行して進めていきます。住宅開発

では、日系企業と提携し、自社用地で中所得世帯向けのニュータウン開発に利用する計画です。

#### 今後の展開は？

サラカム湿地帯では、農業に使用できる土地が限られていることもあり、当社では首都西部のサントン郡に大規模な農業用地を確保しています。ここは LSG が開発を進めるダムのおかげで灌漑が進んでおり、大規模な農地開発と運営が可能な環境が整っています。この新たな農地で、もち米、トウモロコシ、果物、和牛を生産し、中国市場向けに販売を計画しています。高品質を望む中国の富裕層向けの生鮮品開発となるため、日本の技術や経験の導入は必要です。日本企業と共同開発事業に期待を寄せています。



①日系企業と提携して栽培するバタフライピーの収穫。②レタスの水耕栽培。③同社が開発したサラカム生鮮市場。④3,000平米の広さを持つ生鮮市場の様子。

DATA

所在地： P.O.Box 80, Km19, Thadeua Road, Ban Donphosy, Hatxayfong District, Vientiane Capital, Lao PDR

電話： +856-21-812025

設立年： 1991

ホームページ：



## キャッサバ輸出を担う企業。

**Pakxong Development Export-Import Co., Ltd.**

**Ms. Inpeng Samuntee / President**

【略歴】1961年、ビエンチャン県生まれ。タイのコンケン大学卒。都商工局や国営企業などで勤務した後2000年に独立しパクセーで木材輸出を行う。2003年Pakxong Development設立。2014年タイでPaksong Thaikankaset設立。サラワン県商工会議所会頭、チャムパサック県商工会議所理事、ラオスキャッサバ協会会頭を務める。2019年アセアンビジネスアワード（ラオス）受賞。

輸出入

栽培

### 御社の事業内容は？

当社はキャベツや白菜など、ボラベン高原で生産される野菜の買い付けと、タイへの輸出からスタートしました。現在はキャッサバの契約栽培と買い付けがメインとなり、全量をタイへ輸出しています。契約栽培地域はチャムパサック県、サラワン県、セコン県の3県に跨がり、86村の6,850世帯とキャッサバの栽培契約を締結しています。契約栽培面積はおよそ1万4,773ヘクタールに達します。タイでは私が100%保有するPakxong Thaikankasetが輸入し、長期契約をしているタイ企業のウボンバイオエタノール社へ納品しています。資金の不足している農家には、ウボンバイオエタノール社から買取価格の30%の資金を事前に供与してもらい、前金として支払っています。2018年実績では、乾燥キャッサバチップ10万トン、生キャッサバ4万トンを、タイへ輸出しました。野菜を含んだタイへの全輸出額は1,900万ドルに上ります。2019年は乾燥キャッサバ25万トン、生キャッサバ30万トンを見込んでいます。

### 全てオーガニックで栽培？

当社の契約農家のキャッサバは、

全てオーガニックで栽培されています。持続的な栽培を可能とするため、収穫後の農地に緑豆などのマメ科植物を栽培し、土壌の劣化を防いでいます。2008年にハラール作物を扱う会社を設立しましたが、ハラール栽培はオーガニック栽培よりも更に基準が複雑で、宗教儀式も伴うことから、現在は栽培を休止しています。

### 野菜栽培は？

キャベツ、白菜、サツマイモ、落花生、バナナ等を、農家から買い付けタイへ輸出しています。毎年、ラオスとタイの地方政府のサポートのもと、タイの複数の企業と品目別の契約を締結し、必要量を納品する仕組みです。コーヒーも取り扱っていますが、輸出ではなくラオス国内の企業へ供給しています。

### 今後の計画は？

まずは販売量の拡大を図ります。2019年は新たにアタプー県に契約栽培地を確保しました。今後は新たに設立したキャッサバ協会を活用し、ラオス中部や北部での展開も視野に入れていきます。特にオーガニック栽培を拡大に注力したい考えです。オーガニックキャッサバの需要は、ヨーロッパやアメリカだけでなく、日本などでも増加しています。更に、2020年からはオーガニック米やトウモロコシ、コーヒーの栽培も計画しています。日本企業が必要な作物があれば、是非とも相談していただければと考えています。当社は首都西部のサントン郡に50ヘクタールの農地を保有しており、作物の共同開発や試験栽培にも対応可能な体制を持っています。



①キャッサバ農家へのフォローアップの様子。②収穫したキャッサバ。③④ボラベン高原で収穫された作物。

DATA

所在地： Pakxong Village, Pakxong District, Champasak Province, Lao PDR

電話： +856-20-9878-8828

設立年： 2003

ホームページ：



## 農家と市場をつなぐ。

### Phanphet Agriculture Development Co., Ltd. Mr. Thongsavanh Meeboun / Chairman

【略歴】1969年、ビエンチャン生まれ。パーバサック職業訓練学校卒。子供の時から父母経営の小型精米所を手伝う。1998年、貿易や運輸等へ事業を拡大。建設事業への投資に失敗し事業を縮小するも、2008年に農業法人を設立し立て直す。現在、ビエンチャン都議会議員（経済計画財務委員）、都商工会議所理事、青年事業家協会農業部長。第1級労働勳章受勲。

加工

栽培

農業機械

#### 御社の事業内容は？

当社は精米業をメインビジネスとした農業法人です。常勤スタッフは40名で、事務、作付け、農業機械、精米などのチームに分かれています。40ヘクタールの自社農園を運営する一方、首都ビエンチャンで農業が盛んなハーサイフォング郡周辺の稲作農家1,000世帯をグループ化しています。収穫後にグループ農家から買い上げた米を、乾燥・精米・保管し、市場へ流通させることが当社の業務です。当社の方法は「2+3方式」と呼ばれるもので、農家側は労働力と土地を、会社側は資本と技術と市場を提供するというものです。当社から農家へは、稲の改良品種種子や肥料、資金を提供しています。収穫後にはこれらの費用を相殺して農家へ支払います。また、当社はクボタやフォードのトラクター、田植機、コンバインなどの農業機械を28台保有しており、耕起、田植、収穫などの作業請け負いもビジネスの柱となっています。その他、農業資材の輸入販売も行っており、鶏卵事業へも出資しています。尚、当社の名前であるバンベットは、ラオス語で「ダイヤモンドの種子」と直訳できます。作物の種を（ダイヤモンドのように）価値有るものにするという意味を込めたものです。

#### 取扱い量や販売先は？

米は安定した需要があります。うるち、もち品種ともに扱っています。当地域では年2回の作付けが可能で、1ヘクタールあたり4.5から5トンの籾米が収穫可能です。今後は三季作の導入も視野に入れています。主な販売先は一般の米市場ですが、大型の販売先としてはピアラオ工場があります。ビール原料としてうるち米のくず米を、1シーズンあたり3,000トン供給しています。また、近年はオーガニック米への需要も増加しており、当社でも試験栽培を開始し、農家へ提供する肥料も化学肥料から国産の有機肥料へ切り替えています。また、最近肉牛ファームの増加で稲わらの需要も増えており、農家から集めて販売しています。

#### 機械化への取り組みは？

田植機やコンバインはもちろん、収穫後の機械化を進めています。精米機は新たな機械を導入中で、2021年には1時間あたり6トンの処理が可能になります。また、冷蔵倉庫の導入も計画しており、品質を保持したまま保存できるため、より高価格で販売することが可能となります。

#### 今後の計画は？

国内で需要が高いココ椰子の栽培を始めたところですが、その他の果物栽培にも取り組みます。ドラゴンフルーツやグアバなどを栽培し、乾燥加工をして輸出する計画です。また、土地のリースを政府に申請しており、試験農地として様々な取り組みを行う計画です。



①近年需要が増している稲わらの集荷。②精米倉庫。③自社農地での収穫風景。④自社農園の蛙の養殖場。

DATA

所在地： Km16, Tadua Road, Nongheo Village, Hatxayfong District, Vientiane Capital, Lao PDR

電話： +856-30-5368794

設立年： 2008

ホームページ： www.phanphetfarm.com.la



## 農業観光のパイオニア。

Phutawen Tourism Co., Ltd.

Ms. Dalounny Douangpaseuth / Director

【略歴】1979年生まれ、ビエンチャン出身。ラオス国立大学で工学と経済経営学学士号取得。建設会社勤務後、バンコク大学でMBA取得。夫の建設会社であるDPSグループのエンジニアとして活躍する傍ら、ラオス北部でハンディクラフト製品や農村開発に携わる。2012年から農業観光開発支援のため「プータウェン・ファーム」構想をスタートさせた。三児の母でもある。

観光

栽培

### 御社の事業内容は？

ラオス初の総合的な農業観光ファームとなる「プータウェン・ファーム」を運営しています。ビエンチャン中心部から東に64キロ、20ヘクタールの敷地に約400万ドルを投資して開発。2017年の開園後、わずか1カ月で20万人の来場があった、ラオスでも人気の高い体験型アミューズメント施設です。バナナやパイナップルなどの果樹ゾーン、サラダ用葉野菜の水耕栽培ゾーン、日本の品種を採用したマスクメロンやアップルトマトのハウス栽培ゾーン、オーガニック野菜ゾーンをはじめ、牛・豚・家禽・養魚などの畜産ゾーンも整備しています。また、フラワーパークやポニーの乗馬など、家族で楽しむことが出来るアトラクションも用意しています。ファーム内で栽培されている野菜や果物の購入も可能です。入場料は大人1.5万キープで子供は無料です。

### 着想のきっかけは？

元々、建設会社のエンジニアとして多くのプロジェクトに携わっており、ラオス北部を中心に様々な場所を訪問してきました。その中で目にしたのは、農村地域の経済的な疲弊です。農村の独自の発展には、農産

品や工芸品開発、農家の人材育成が重要だという考えに至りました。そこで、まずは自社農園を開発し、人々が職業訓練を受けられる環境を整備したのが当ファームの発端です。生産物は都内のスーパーに販売し、同時に農業経営の学びの場として、地方出身の若者や農学部を学生を雇いました。そのような時に、アジア開発銀行から農業観光のアイデアをもらったことが、事業開始に至る大きな転換点となりました。①農業・食品加工、②観光、③商業、④環境保全、⑤人材育成、⑥協力の6つの柱を融合させることで、新たなビジネスと地域発展の場が生まれるという着想です。2017年1月にテストオープンしたところ、ラオスで日本のマスクメロンが味わえるとSNSで一気に有名になり、受け入れ能力を超える来園者が詰め掛けました。

### 日本企業への期待は？

現在、更なる充実を図るため、レストランや民族工芸ゾーンの整備、ハーブ栽培や養蜂といった新たなゾーンも建設中です。当社は、外部からのビジネスのアイデアを常に受け付けています。共同出資や歩合賃料等の方式で、フードコートやマッサージ、レンタルサイクル、馬車、リゾート宿泊施設などの開発も進めています。日本企業に面白いアイデアがあれば、是非とも相談ください。また、今後は農産品だけでなく、加工品の製造や販売も増やして行く予定です。商品開発や品質管理を行うマネージャーが不足しており、日本に期待するところです。また、農業の現場では、害虫駆除や土壌改良など、技術的な側面でも支援を期待しています。



①ファーム内には様々な花が植えられている。②ラクダやポニーの騎乗サービスもある。③民族舞踊イベントの様子。④施設内にキャンプ場も併設されている。

DATA

所在地: Ban Naxay, Thaphabat District, Bolikhamxay Province, Lao PDR

電話: +856-21-214968

設立年: 2017

ホームページ: <https://www.facebook.com/phutawen>



## 若き農業スタートアップ企業。

### Sammith Farm Individual Enterprise Mr. Vilaysack Khammanivong / Director

【略歴】1990年、ビエンチャン生まれ。財務省ドンカムサン経済金融アカデミー卒（金融学士）。学生時代よりコンピューターの会社を運営。国営パテートラオ紙の新聞記者として3年間活躍し退職。2019年よりサムミットファームを立ち上げた。

#### 栽培

#### 御社の事業内容は？

当社は野菜や果物の栽培を行う企業で、2019年に同世代の友人3人と共に立ち上げました。うち一人は日本留学経験があり、日本の栽培方法をラオスに導入する事業アイデアを形にしたものです。首都ビエンチャン近郊に2,700平米の土地を確保し、水耕栽培場と試験農地を稼働させています。ヨーロッパからはレタスのグリーンオーク、レッドオーク、グリーンコス、レッドコス、ロケット、バターヘッド等を、日本からはオオバナなどの種子を輸入し、水耕栽培を行っています。資材や粉末肥料などの大半はタイから調達しています。なお、社名のサムミットとは、「3つの友好」を意味し、環境、消費者、ネットワークに友好関係を築くというコンセプトを表しています。

#### 主な販売先は？

当社は事業開始して数カ月の小さな企業ですが、既にビエンチャン市内の多くの有名日本料理店、カフェ、レストランに卸しています。また、セボン鉱山やプーピア鉱山といった鉱山会社向け食料調達会社とも契約しています。当社の野菜は品質が高く安定しており、市場や仲買

人を通さず直接納品することで、価格面でも競争力を持っています。現在は日産100キロ程度の量で、日々増える需要に十分にに応じきれていない状況です。また、都心のワールドトレードセンター内にオープン準備中の近代商業施設「パークソン（百盛）スーパーマーケット」とも契約しました。当初は月2トンの野菜を供給する予定です。

#### 今後の計画は？

現在稼働中の第1農場に加え、近く2,700平米の第2農場、6,000平米の第3農場、1万平米の第4農場を稼働させます。第2・第3農場ではトマト、ブドウ、メロン、アスパラガス、ミニキャロット、オオバ、バジルのハウス栽培、第4農場では露地栽培をスタートさせます。同時

に周辺農家と栽培委託契約を結び、当社が提供する種苗を提供し栽培してもらいます。ゆくゆくは地方都市にもこのビジネスプランを拡大し、当社の種苗やノウハウを提供するフランチャイズ化を目指しています。サムミット・ブランドをラオスを代表する農業企業へ育てていきたいと考えています。

#### 日本企業への期待は？

当社はラオス全土へ拡大を模索する企業です。事業を拡大するには資本が不足していますし、ICT導入や農業技術面でのサポートも必要です。日本企業の出資・協業を歓迎します。また、現在タイから調達している農業資材に比べ、よりラオスの環境にマッチした良いものがあれば紹介ください。



①共同運営者のソムパディップ氏。②、③レタスなど葉野菜の水耕栽培は、低コストの高設栽培施設を実現している。④商品パッケージにも力を入れている。

所在地: Hom9, Dongkhaxay Village, Hatxayfong District, Vientiane Capital, Lao PDR  
電話: +856-20-28885558 設立年: 2019 ホームページ: [www.facebook.com/pg/sammithfarm](http://www.facebook.com/pg/sammithfarm)



## 農業・畜産業が自らの天職。

### Soukchaloen Farm

### Mr. Bounyalit Soukchaloen / President

【略歴】1969年生まれ、パクセー出身。ビエンチャンの高校卒業後、パクセーに戻り農業資材販売店を開く。2015年には「たまごサミット2015 イン東京」にラオス代表として参加。事業パートナーの妻との間に3人の子供。

畜産

農業資材

で出荷しています。

こちらへの飼料供給という販路にも期待しています。

#### 御社の事業内容は？

南部のパクセーで農業資材販売と養鶏を行っています。農業資材販売は高校卒業後に小さな店舗から始めました。パクセーはラオスの有力な農業地帯ですので、農業資材市場は拡大するものと期待していました。現在はパクセーで最大の農業資材販売店に成長しています。販売品目は種苗、農薬、肥料、畜産飼料、各種機材など、農業・畜産に欠かせない品々です。主にタイから仕入れており、タイの飼料メーカーであるベタグロとクルンタイの正規代理店でもあります。

#### 養鶏については？

昔からやっていましたが、本格参入したのは2009年からです。当時、ラオス南部の鶏卵はタイやビエンチャンから運ばれていたため、非常に割高でした。市場参入余地が高いと感じ、1,170億キープ（約15億円）を投資して、30万羽規模の採卵養鶏場をバッチエン郡に設立しました。現在、30万羽の白色レグホンを飼育しており、毎日安定的に鶏卵を出荷しています。南部4県では当社が市場の80%を占有しています。ヒナや飼料はタイから輸入しており、採卵期を過ぎた鶏は鶏肉とし

#### 今後の展開は？

養鶏事業は鶏卵の需要が当社の供給能力を上回っており、今後50万羽規模の採卵養鶏場に拡張する予定です。将来的にはアヒルなど他の家禽類も飼育したいと思っています。また、養鶏場拡張と同時に、飼料工場も設立します。これはタイの食品大手ベタグロとの合弁で、投資額は約8億バーツです。月産1万8,000トンを生産する計画で、飼料は当社の養鶏場でも使用し、一部はラオス国内でも販売します。トゥモロコシ、粉殻、キャッサバなど、原料の約75%は国内で調達。大豆、魚粉、化学薬品などはタイから輸入します。合弁先のベタグロはラオスで養豚場を展開する予定ですので、

#### 日本企業への期待は？

農業資材や鋼板品質検査機器など、日本製品で良いものがあれば導入したいと思います。2015年に日本のイセ食品が主催した「たまごサミット2015 イン東京」にラオス代表として参加しましたが、日本の養鶏場の清潔さに感銘を受けました。鶏糞の腐敗による悪臭や周辺環境への影響などを考え、日本の処理技術や再利用のアイデア等を導入できればありがたいです。農業や畜産は自らの天職だと思っています。この分野でラオスに本格的な投資を考えている日本企業があれば、現地パートナーとしてお力になれると思っています。



①パクセーで最大の農業資材販売店。②自社の鶏卵ブランド「SLF」は専用の販売所も設けている。③養鶏場の様子。④卵のパッケージングの様子。

DATA

所在地： 275 Phonekung Village, Pakse City, Champasack Province, Lao PDR

電話： +856-20-56949999

設立年： 1987

ホームページ：



## 高付加価値農業で地域経済に貢献。

### STE Lao-International

### Mr. Hom Songpadith / V. President

【略歴】1942年生まれ、カムアン県出身。1969年来日。アルバイトをしながら専門学校で学ぶ。1978年に同社設立。

栽培

輸出入

#### 御社の事業内容は？

香辛料や野菜を無農薬・減農薬で栽培しています。香辛料はレモングラス、コブミカン、ハッカ、唐辛子など7種。エスニック料理には欠かせない材料で、大半が日本向けの輸出です。輸出量は毎週300キロ程度になります。2年前からは精力剤などの健康食品に使用されている黒生姜の栽培も試験的に始めています。以前は日本向けに白炭も作っていましたが、今は原料が少なくなり手を引きました。また、関連企業の寮都産業では、ラオスのビール「ピアラオ」の日本における正規販売代理店を10年以上続けています。

#### 自社農園で栽培を？

ビエンチャンから北に約34キロ行ったポンハイカム村に12ヘクタールの自社農場を持っています。私自身も週3回は足を運び、自分の目で監督しています。ラオス人はもともと農作業が得意ですので、働き手の質はとても高いです。日本企業が栽培方法を教わりにきたこともあるくらいです。また、輸出向け作物はかなりの現金収入になりますので、周辺の住民にも協力してもらっています。無農薬・減農薬栽培で付加価値が高く、量は少なくとも品質

の良い作物を生産している点が自社の特徴です。このような取り組みは、地元農家の生活向上、そして地域経済の活性化にも貢献できていると自負しています。農場経営に参入している外国企業も増えていますが、農薬の過度な使用による環境問題や収奪などの土地利用により土壌劣化を招いているところも見られます。地域に根ざした、持続可能な農業が大切だと思っています。

#### 今後の展開は？

現在、日本企業からイチゴや山葵の生産を打診されています。また、大豆や芋の栽培も可能ですし、以前に蕎麦を作った際には、「日本の蕎麦よりも美味しい」と評価を受けました。これらの作物についても輸出の可能性を探りたいと思っています。無農薬・減農薬で栽培しているので、何千トンという大量生産はできませんが、その分品質の高い商品を作り続けていきたいです。また、周辺農家だけでなく山岳民族などとの協力も拡充し、地域経済の更なる

発展を目指していきたいです。

#### 日本で生活したご経験が？

1969年から滞在しました。元々、日本とのビジネスを考えていたので、アルバイトをしながら専門学校に通い、必死に日本語を勉強しましたが、ある人から「日本でビジネスを行うのであれば、日本語を勉強した方がいい」とのアドバイスを受けたためです。

#### 日本企業へメッセージを

まずは何回もラオスに足を運び、自分の目でラオスの実態を把握してほしいです。ラオスでもできること、ラオスだからこそできることを発見できれば、成功の可能性は高くなります。また、農産物の日本向け輸出には、植物検疫をはじめ課題が多いのも実情です。農業はラオス政府も力を入れている分野ですので、日本企業には投資や協業を通じた支援をお願いしたいと思っています。



① 同社が栽培する黒生姜。



② ラオス料理には欠かせない香菜（ノコギリコリアンダー）も栽培している。

DATA

所在地： No.141 Khoun Bou Lom Rd. P.O. Box2939, Vientiane Capital, Lao PDR

電話： +856-21-212995

設立年： 1978

ホームページ： <https://www.facebook.com/phutawen/>



## ラオスを代表する農業生産者組合。

### The Bolaven Plateau Coffee Producers Cooperative Mr. Bounthong Thepkaisone / President

【略歴】1975年生まれ、チャムバサック県出身。バクソン高校卒業後コーヒー農家を継ぐ。2005年コーヒー生産者グループを同じ村の10世帯で組織。2007年フランスAFD支援で生産者グループを統合。2010～13年、監査理事を務める。2013年から組合長に選出され現在2期目（任期3年）。自身も5ヘクタールのコーヒー農園を営む。

組合

栽培

加工

輸出入

#### 組合の概要は？

コーヒー生産者による農業協同組合で、現在ラオス南部のチャムバサック県、セコン県、サラワン県の3県で47生産者グループ、1,093世帯で構成されています。2005年からフランス開発庁（AFD）の支援で国内コーヒー生産者の組織化が図られ、2007年に生産者協会として立ち上げられ、2014年から現在の生産者組合となりました。常駐スタッフは34名で、品質管理やオーガニック管理など、生産者グループ支援を中心に活動しています。2009年にオーガニック認証とフェアトレード認証を取得し、輸出も開始しました。2010年にはAFDの支援を受け、日産20トンの処理能力を有するドライミル工場を立ち上げました。国内市場向けに焙煎施設も稼働しています。2011年にはカップング・ルームを開設し、ロット別の品質管理も強化しました。新たな取り組みとして、2015年から農業観光を開始しています。ボラベン高原の自然や農園を楽しみ、工場訪問、ホームステイなど、少人数向けの観光アクティビティを提供しています。

#### 活動内容と戦略は？

非営利組合として、持続的な生産

を実現する様々な取り組みを実施しています。組合員は一人10万キープの出資人と位置づけられます。フェアトレードとオーガニック認証を受けており、プレミアム価格でヨーロッパ、北米、アジアの市場へ輸出することが可能です。2015年は1,233トン、2016年は1,070トンの生豆を輸出しました。大部分は高品質なアラビカ品種です。フェアトレードの基準を満たすことで、コーヒー豆の農家前買い付け価格は、一般価格よりも5年間平均で47%高く保っています。また、売上の一部を生産者トレーニングや組合員の生活向上に還元しており、各地で小学校や井戸、医療施設の建設なども進めています。オーガニック生産では、全組合員が厳しいルールに従う必要があり、より良い品質を目指し、トレーニングにも力を入れています。

#### 今後の展開は？

4つの活動指針のもと、組合と生産者の発展を進めていきます。①組合員の増加、②環境対策やコミュニティ支援、③ブランド化のための地理的表示保護制度（GI）の活用、④高品質コーヒーの生産です。また、コーヒー園にマカダミアナッツ、アボガド、ジャックフルーツなどを混植し、収入源の多層化を図ることも計画しています。この取り組みには、マーケットを確保することが前提です。日本との取引を是非強化したいと思っています。また、組合運営においては、日本のJAやメキシコなど、様々な先行事例を研究しており、研究成果はを国内の他組織へ共有していきます。そして、海外の組織との連携や協業にも、積極的に取り組みたいと思います。



① コーヒーチェリーの精選後の乾燥作業。② 脱穀乾燥したコーヒー豆。③ 倉庫とドライミル工場。④ ドライミル設備。

DATA

所在地： P.O.Box 614, Pakse City, Champasack Province, Lao PDR

電話： +856-31-214126

設立年： 2007

ホームページ： www.cpc-laos.org



## 畜産から食肉加工まで幅広い展開。

### XP Trading Lao-Chine Co., Ltd.

### Mr. Xayphone Phouthavong / President

【略歴】1970年生まれ、ビエンチャン出身。高校卒業後、親類が経営する写真店でカメラマンとして働きながら英語や中国語を学ぶ。1997年、写真用印画紙の輸入商社を設立。2003年、全国の農村で深井戸掘削事業を開始。2008年、トウモロコシ用サイロへの投資を始めたことがきっかけとなり、畜産飼料、養豚、肉牛飼育、屠畜場、養魚、食肉加工へ事業を拡大。

畜産

加工

#### 御社の事業内容は？

当社は1997年に中国から写真用印画紙の輸入販売を行う会社としてスタートしましたが、現在は畜産業が中心事業となっています。2008年にシェンクワン県やビエンチャン郊外に、トウモロコシ用サイロ200基を建設しました。ここでは周辺農家が栽培したトウモロコシを年2万トン程買い付け、当社の飼料工場で大豆粉末やビタミン棟を添加した畜産飼料を製造しています。現在、日産50から80トンの生産量を誇ります。2012年からは養豚事業を開始しており、現在350頭の母ブタから、年間5,000頭の食用豚を飼育しています。更に、養豚場から排出される糞を利用した100ヘクタールの牧草栽培とともに、ブラーマン種等の肉牛飼育や淡水魚の養殖も開始しています。これらのビジネスモデルはラオス全土で可能性があり、今後も拡大路線で行く計画です。

#### 食肉加工にも参入を？

2016年にハンガリー企業と合併で会社を設立し、ラオス政府が保有する屠畜食肉加工場を借り受けました。この工場はハンガリー政府の支援を受けた施設で、衛生面も優れており、冷蔵倉庫での熟成処理が可

能です。ソーセージやハム、ビーフジャーキーなどの食肉加工を行い、「ラオ・フレッシュ・ミート(シンソットラオ)」ブランドで国内販売を行っています。

#### 主な販売先は？

熟成させた生鮮肉や加工肉は一般市場やスーパーで販売するだけでなく、ホテルやレストランにも卸しています。また、子会社が運営しているラオフレッシュミート店舗でも販売しています。自社店舗は現在まだ2店舗ですが、今後は全国各地にある生鮮市場に出店し、清潔で質の高い食肉を供給したいと考えています。また、ベトナムへの輸出準備も進めており、近い将来、中国やタイ、シンガポールへの輸出も視野に入れています。中国ラオス鉄道が2021

年に完成することから、中国向け輸出は商機があると考えています。

#### 日本企業への期待は？

当社は私一人では知識や資金にも限界があることから、多くの方々の協力を得ながら発展してきました。畜産飼料や養豚ではアメリカ人専門家を、食肉加工ではレストラン経営者をパートナーとしています。新たな取り組みとしては、豚糞から発生するメタンガスを利用した自家発電設備の導入を検討しています。ここでも専門家や経験者の力が必要になります。日本企業には畜産や食肉加工の技術や設備、また家畜品種における提携を期待しています。当社は引き続きラオス全国で畜産業を拡大していく計画ですので、有力なパートナーを常に求めています。



①養豚養魚場。②肉牛の飼育。③清潔に包装されたラオ・フレッシュ・ミートの商品。④配送用トラック。

DATA

所在地: No.133/04 Samsenthai Rd., XiengYueun Village, Chanthabuly District, Vientiane Capital, Lao PDR

電話: +856-21-217425

設立年: 1997

ホームページ: <http://xptrading.net>

## 本書に掲載した写真に関して

本書に掲載した写真は基本的にジェトロが直接撮影したものを使用していますが、以下に記載する写真については、インタビューを実施した各社から提供を受けたもの、もしくは公式ホームページや公式 Facebook ページから同社の承認を得たものを使用しています。

### 【表紙】

写真



出所 AMZ Group Co., Ltd.

### 【本文】

ページ	企業名	写真	出所
05	AIDC Agriculture Green Farm Sole Co., Ltd.	①、②、③、④	同社提供
06	AMZ Group Co., Ltd.	顔写真、①、②	同社提供
08	D.S.K. Group	①、②、③	同社 Facebook から
09	Dynamic Investment Co., Ltd.	①、②、③、④	同社提供
11	Herb Import-Export Sole Co., Ltd.	①、②	同社提供
13	Khampay Sana Agricultural Development Co., Ltd.	②、③、④	同社提供
15	KPN Pharma Sole Co., Ltd.	①、②、③	同社ホームページから
16	Lao Agro Industry Co., Ltd.	①、②、④	同社 Facebook から
17	Lao Agro Tech Public Company	①、②、③、④	同社ホームページから
18	Lao Dairy Farm	①、②、③、④	同社提供
24	Pakxong Development Export-Import Co., Ltd.	①、②、③、④	同社提供
26	Phutawen Tourism Co., Ltd.	①、②、③、④	同社提供
28	Soukchaloen Farm	③、④	同社提供
31	XP Trading Lao-Chine Co., Ltd.	①、②	同社ホームページから







---

## LAOS 100

ラオスの有カビジネスパーソン - 農業編 -

---

発行日：2019年11月

発行者：日本貿易振興機構（ジェトロ）

〒107-6006 東京都港区赤坂1丁目12-32

アーク森ビル（総合案内6階）

TEL.03-3582-5511

<https://www.jetro.go.jp/>

制作：ジェトロ・ビエンチャン事務所

編集：SYNC Design Co., Ltd.

撮影：Ishida Taiseisha (Thailand) Co., Ltd.

---

【著作権について】本レポートの著作権はジェトロに帰属します。本文の内容の無断での転載、掲載等はお断りいたします。

【免責について】ジェトロは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、一切の責任を負いません。これは、たとえジェトロがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

Copyright © 2019 JETRO. All rights reserved.